



目の検査のご案内

お子さんの目の機能は生まれてから発達を続け、6歳にほぼ完成します。3歳くらいのお子さんの視力は0.6～0.9くらいです。ところが強い屈折異常（遠視、近視、乱視）や斜視があると目の機能の発達が遅れ、十分な視力が得られないことがあります。こうした目の状態（弱視等）は早く見つけ、小さいうちから正しい治療や指導を受ける必要があります。このような目の状態を見つけるために、視力検査は大切な検査です。3歳ごろには、練習をすれば、視力検査ができるようになりますので、ご家庭で視力検査を行い、その結果をwebフォームに入力してください。

※弱視のお子さんの割合は1～2%と言われており、小牧市でも同様の結果となっております。

●用意するもの

- 1 視標：下の輪をそれぞれ切り取り、20 cm四方くらいの白い紙にはります。
(図1を参考にしてください)
- 2 眼帯：ガーゼまたはティッシュペーパーを5 cmくらいの大きさに折って、バンソウコウかセロテープで、のぞかれないようにしっかりとってください。
- 3 距離を測るためのものさし、またはメジャー。

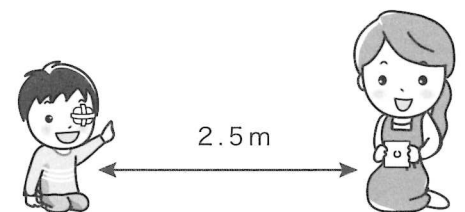
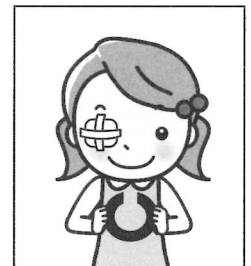
図1 視標の見せかた



●検査の方法

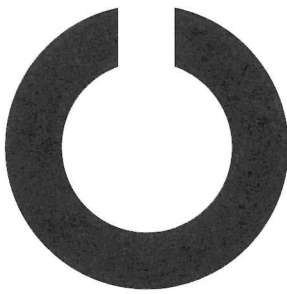
- 1 楽に本が読める程度の明るい部屋で行います。
- 2 視力検査の練習をします。
 - (1)お子さんと1 mくらい離れて向かい合い、大きい輪の視標を見せます。両目を開けてします。
 - (2)切れ目の方向を指か手で示して答えさせます。または図2のような輪を厚紙で作ってお子さんに持たせ、輪の切れ目の向きを合わせる方法でも良いでしょう。
 - (3)切れ目の方向は右、左、上、下の4方向とします。視標の向きを変える時は、必ず一度視標を隠してから変えてください。
 - (4)1 mくらいでできたら、2.5 m(できるだけ正確に測ってください)離れて行ってください。
 - (5)両目を開けて、切れ目の方向を正しく答えられますか。
 - (6)片目を隠す練習です。右目、左目をそれぞれ隠して答えさせてください。
- 3 検査をします。
 - (1)小さい輪の視標を使い、2.5 mでします。
 - (2)両目で検査をします。上下左右の4方向見せて、3方向以上正解したら見えたとします。
 - (3)左目を隠して右目の検査をしてください。見えにくそうだったりいやがったりする時には、左目から検査してください。両目の時と同じように判定します。
 - (4)続いて隠す目を変え、左(または右)の目の検査をします。
- 4 両目、右目、左目それぞれの検査結果を記録してください。

図2 切れ目の答えかた



キリトリ

練習用



検査用

